

アクティビティ調査の報告

(1) 調査対象

川西能勢口駅ペデストリアンデッキ北側・南側の2地点の歩行者



北側デッキ（以下「O（オー）デッキ」）



南側デッキ（以下「K（ケー）デッキ」）

(2) 調査方法

軌跡トレース調査（歩行者動線を記録） マッピング調査（滞留者をプロット）



Kデッキはアステ川西6階から、Oデッキはデッキ上から観測。

(3) 調査の実施状況

各時間帯（毎時40分台）10分間のトレース／毎時50分時点の滞留者を記録

(4) 調査日時

令和元年11月17日（日）、18日（月）いずれも9:00～20:00

(5) 調査の目的

デッキの歩行者通行実態を把握し、主要動線とデッドスペースを明らかにすることで、将来的な公共空間活用に向けた前提条件を整理する。

(6) 軌跡トレース調査結果

全時間帯のトレース結果を重ねて図示。休日（左）と平日（右）、時間帯ごと（別添資料）の比較では通行動態に違いを確認することはできなかった。

【川西能勢口駅南側デッキ（Kデッキ）】休日通行者の軌跡



【川西能勢口駅南側デッキ（Kデッキ）】平日通行者の軌跡



【Kデッキの歩行者動態】

デッキ上の主要道線は、赤字太線で示した屋根の下、川西能勢口駅と川西阪急の最短ルートとなっている。川西能勢口駅とアステ川西の往来はデッキ中央のモニュメントを掠めるように斜めに最短ルートを横切っている。

東側に設置されたベンチのある一角、南側のアーチ状の通路の通行はほとんど見られなかった。

【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】休日通行者の軌跡



【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】平日通行者の軌跡



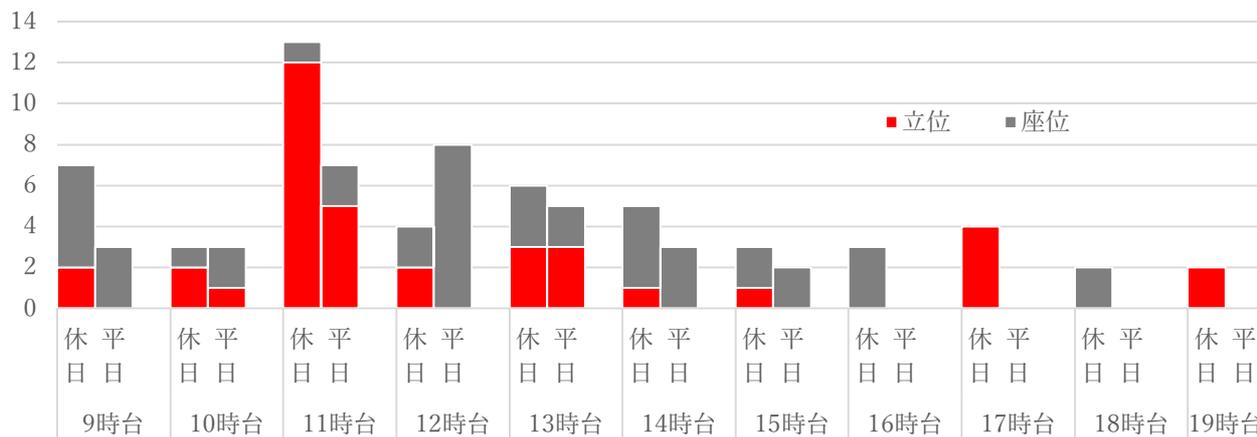
【Oデッキの歩行者動態】

デッキ上の主要道線は、川西能勢口駅とモザイクボックス入り口（西側）を結ぶ屋根のついた最短ルートとなっている。モザイクボックス東側の入り口と駅との通行量は少なく、デッキを円形（O型）に屋根が囲んでいるが、南側の屋根の下を歩く人の姿は少ない。中央に設置されたタワーを囲む構造物の北東側と南西側の通行者もほとんど見られなかった。

(7) 滞留者数カウント調査の結果

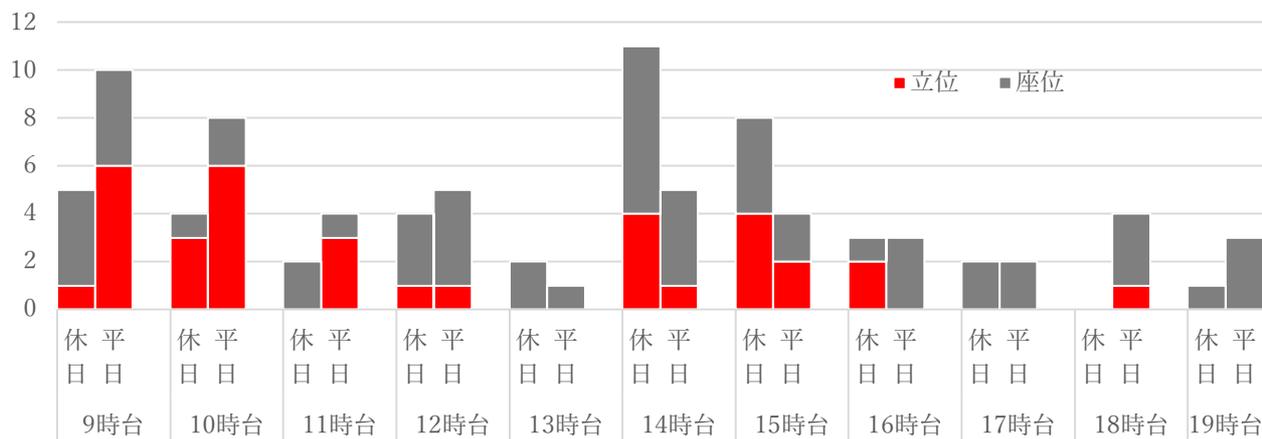
それぞれの滞留者数は以下のとおり、全調査時点での滞留者数は0人から最大でも13名となっており、いずれのデッキも人でにぎわっている印象はない。調査日平日の16時以降に雨が降り出した影響でこの時間帯の数は少なくなっている。

Kデッキ滞留者数の推移



休日の11時台の立っている人はグループでの待ち合わせで数が増えている。他には平日の12時台に座っている人が多く見られるのは昼休みの休憩での利用と思われる。

Oデッキ滞留者数の推移

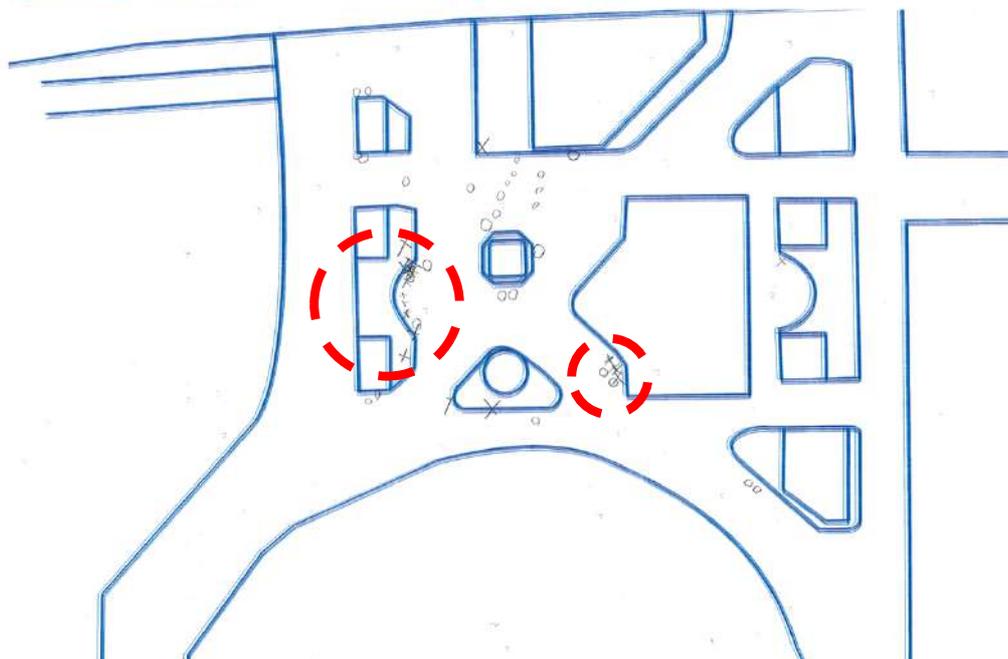


休日の14時～15時台、平日の9～10時台に滞留者が目立つ。通行量がKデッキに比べて少ないせい、長時間座っている人の割合が高いものOデッキの特徴とといえる。

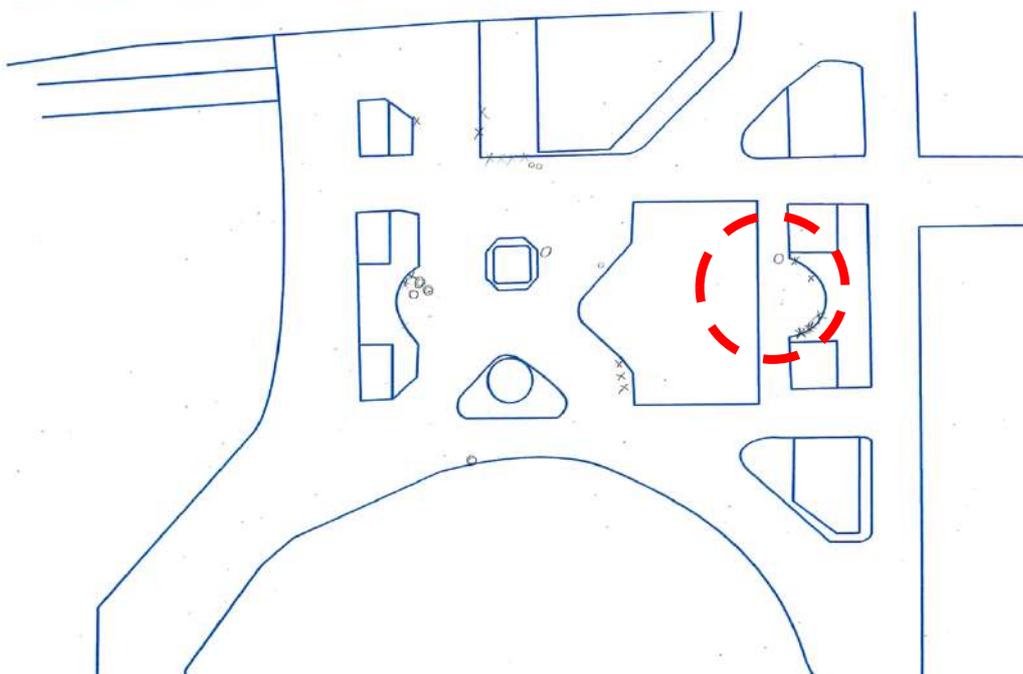
(8) 滞留者マッピング調査の結果

全時間帯のマッピング結果を重ねて図示。

【川西能勢口駅南側デッキ（Kデッキ）】休日滞留者のマッピング



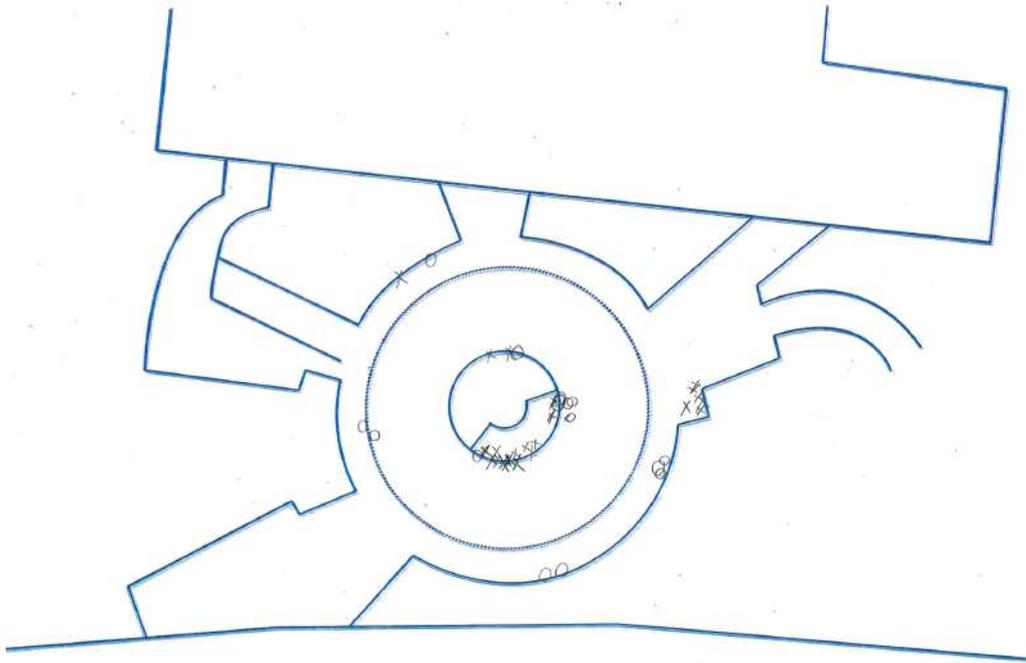
【川西能勢口駅南側デッキ（Kデッキ）】平日滞留者のマッピング



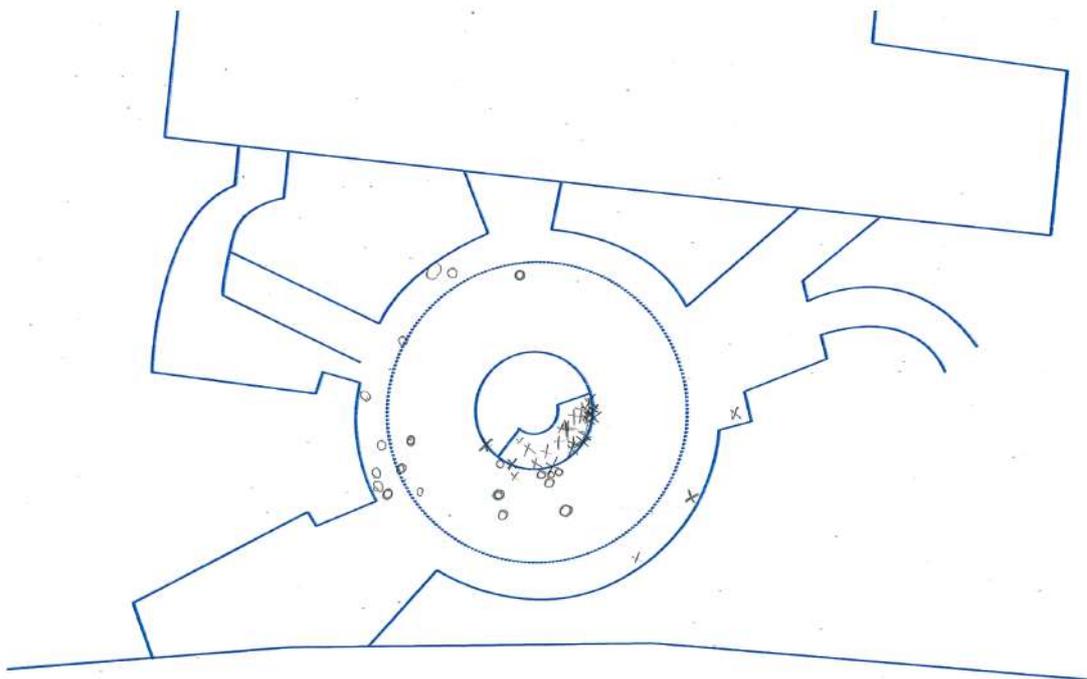
【Kデッキの滞留動向】

きんたくん像のある西側ベンチは休日の滞留者、東側のベンチエリアは平日に座る人が見られた。中央モニュメント周辺で立って待ちあわせをする人のほか、デッキ南東の可動式スツール周辺もたまり場として機能している。

【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】休日滞留者のマッピング



【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】平日滞留者のマッピング



【Oデッキの滞留動向】

中央のベンチに座る姿が目立つ一方で、デッキを囲むように作られたベンチの利用度は低い。通行量も少ないことから滞留者による喫煙が見受けられた。中央のベンチは滞留者の物理的な距離は近いが、グループでの利用や他者との交流行動はほとんど見られなかった。通路上に立っている滞留者は主にチラシ配りをしている。

(9) 調査員へのヒアリング

今回は川西市内で実際に活動する方々に調査員を依頼した。両日とも参加した調査員からそれぞれのデッキを観察した印象について話を聞いた。

- ・10～20代の若い人たちはイヤホンをつけて足早に通り過ぎている。
- ・トレース調査をするとほとんど使われていない場所があることがわかった。
- ・駅前のデッキとして夜間の照明が暗い。
- ・みなスマホを見たり、ただ景色を眺めているだけで個別に活動している。
- ・ベンチはあるが向かいあわせになるテーブルと椅子があれば、子どもにご飯を食べさせたりするなど子連れにも便利。

(10) 今後の活用に向けた提言

本調査により、市内でも屈指の通行量を誇るいずれのデッキも、滞留機会が少なく空間的な魅力やにぎわいには乏しいことが明らかになった。今年度川西市はこれらの有効活用を目的に道路占用許可の基準を緩和するなど、新たな動きも生まれ本デッキを使った商業イベントなどには期待が高まる。

しかし「にぎわい＝人数×滞留時間」という考え方に基づけば、一過性の活用ではなく、日常的に居心地のいい空間をどう作るのかが問われている。毎月から毎週、いずれは毎日できるような空間整備やそれらを使ったアクティビティを生む必要があるだろう。

トレース調査の結果から、道路管理者が大切にしている歩行者動線の確保するためのヒントが得られており、デッキ上のすべてが動線になっていないことがわかった。さらに滞留調査では、滞留するために整備されたベンチやストリートファニチャーの利用度が低いことが明らかになり、これらを活用するためのアイデアと小さな改良が求められている。

利用者の目線で駅前空間を再編成するためには、本調査に参加した実際の街のプレイヤーと一緒に、他市の事例に学びながら駅前を「つかいこなす」視点を育て、次の展開を考えたい。